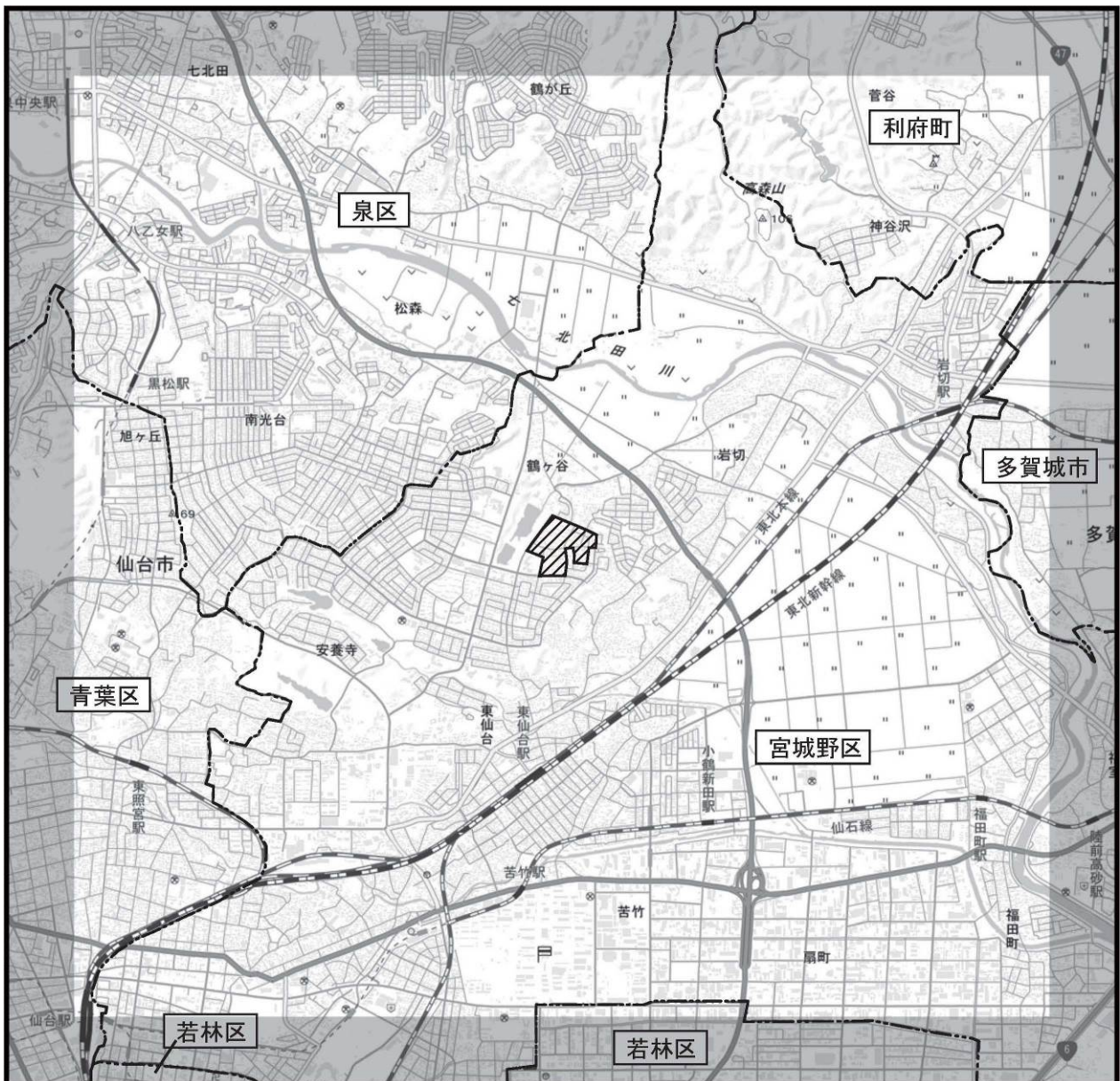


6. 地域の概況

6. 地域の概況

地域の概況における調査範囲（以下、「調査範囲」という。）は「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」（平成 31 年 1 月 仙台市）（以下、「技術マニュアル」という）に示されている概況調査範囲（5～10km）を踏まえ、計画地を中心とした概ね 8km 四方の範囲とした（図 6-1 参照）。



凡 例




-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 地域の概況における調査範囲
(計画地を中心として概ね8km四方)

図 6-1 地域の概況調査範囲



S=1:50,000

0 1250 2500m

6.1 自然的状況

6.1.1 大気環境

(1) 気象

計画地の最寄りの気象観測所である仙台管区気象台（仙台市宮城野区五輪 1-3-15 仙台第3合同庁舎）の位置は図 6.1-1、仙台管区気象台における平成 22 年～令和元年の気象の概況及び令和元年の気象の概況は表 6.1-1 及び表 6.1-2 に示すとおりである。

ア. 気温の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の平均気温は 13.2℃、月最高気温の平均値は 24.4℃、月最低気温の平均値は 5.0℃である。

令和元年の平均気温は 13.6℃、最高気温の平均値は 24.9℃、最低気温の平均値は 5.3℃である。

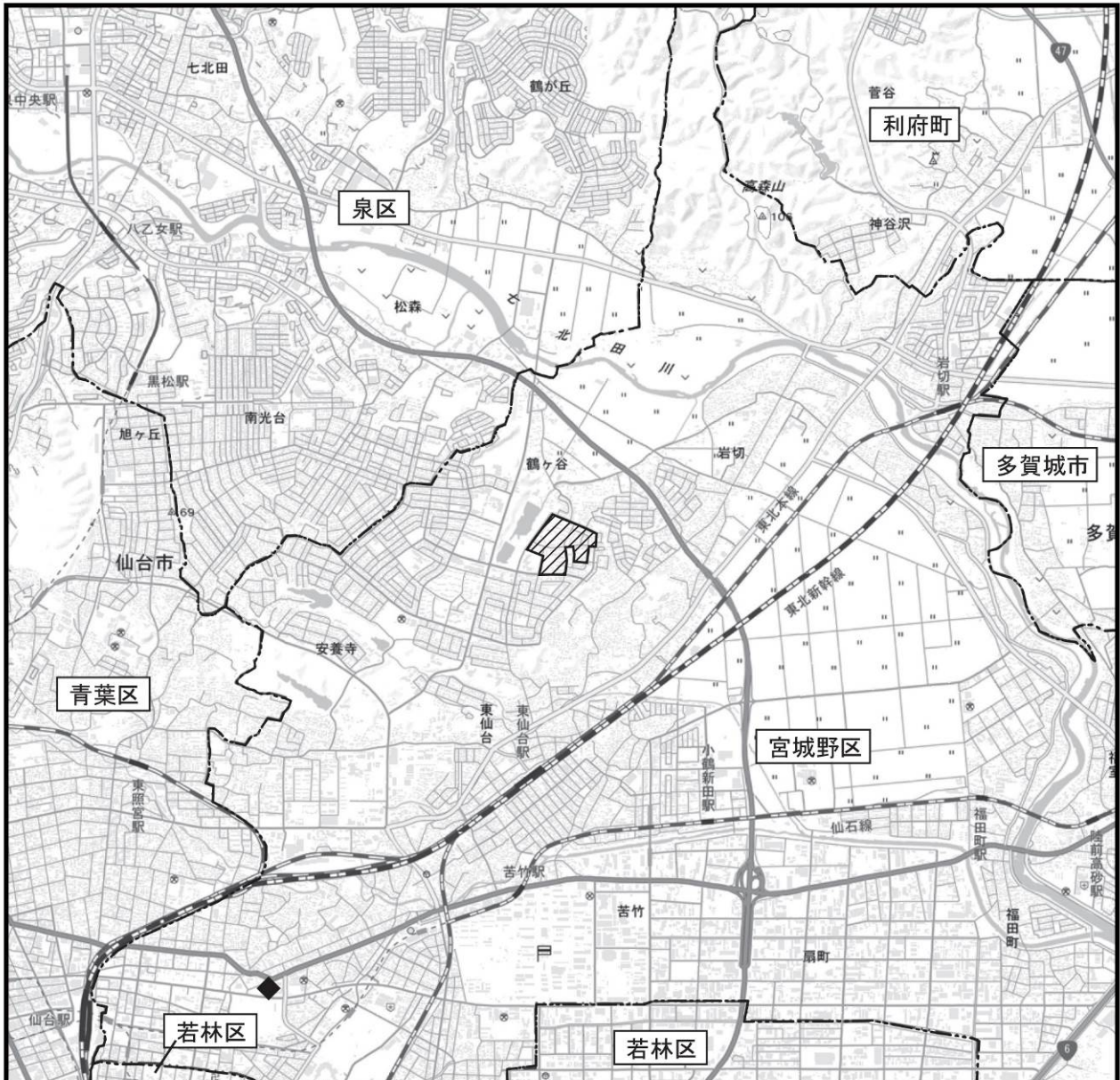
イ. 降水量の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の平均年間降水量は 1,281mm である。令和元年の年間降水量は 1,390mm と過去 10 年間の平均年間降水量に対して約 100mm 多い。




ウ. 風向・風速の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の年間平均風速は 3.1m/秒である。風向は 1 月～4 月及び 9 月～12 月にかけて北北西及び西北西の風が、5 月～8 月にかけて南東の風が卓越している。

令和元年の年間平均風速は 3.1m/秒、風向は 1 月～4 月及び 9 月～12 月にかけて北北西及び西北西の風が、5 月～8 月にかけて南東及び東南東の風が卓越しており、平成 22 年～令和元年の 10 年間とほぼ同様の傾向が見られる。



凡 例

-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 仙台管区気象台

出典：1. 「気象台の位置」（平成30年9月閲覧 気象台）
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>
 2. 「仙台管区気象台」（平成30年9月閲覧 仙台管区気象台）
<https://www.jma-net.go.jp/sendai/index.html>

図 6.1-1 仙台管区気象台の位置



S=1:50,000

0 1250 2500m

表 6.1-1 気象の概況（仙台管区气象台：平成 22 年～令和元年）

月	項目	気温（℃）			降水量（mm）	日照時間（時間）	平均風速（m/秒）	最多風向
		平均	最高	最低				
1月		1.8	11.4	-5.2	27.1	159.2	3.5	北北西/西北西
2月		2.3	14.2	-4.8	31.9	155.6	3.5	北北西
3月		5.8	19.1	-2.3	90.2	181.2	3.6	北北西
4月		10.7	23.7	0.9	97.2	196.0	3.5	北北西/西北西
5月		16.4	29.3	7.2	119.3	221.3	3.2	南東
6月		19.7	29.9	11.2	146.0	163.0	2.9	南東
7月		24.0	34.1	17.2	123.8	144.9	2.5	南東
8月		25.3	35.2	18.6	136.1	152.7	2.6	南東
9月		21.7	32.5	12.7	221.5	143.8	2.9	北北西
10月		16.0	27.7	6.6	183.8	153.5	3.1	北北西
11月		9.9	20.6	0.8	43.5	145.7	3.0	北北西
12月		4.5	15.7	-2.6	61.1	145.1	3.3	北北西
年間		13.2	24.4	5.0	1,281	1,962	3.1	北北西/西北西

※：年間における各項目は、以下のとおり。

気 温：月平均気温、月最高(低)気温の10年間における平均値

降 水 量：月間降水量の10年間における平均値

日照時間：月間日照時間の10年間における平均値

平均風速：月平均風速の10年間における平均値

最多風向：月最多風向の10年間における最多風向

出典：気象庁 HP「過去の気象データ検索」（令和2年7月閲覧）（<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁）

表 6.1-2 気象の概況（仙台管区气象台：令和元年）

月	項目	気温（℃）			降水量（mm）	日照時間（時間）	平均風速（m/秒）	最多風向
		平均	最高	最低				
1月		2.4	10.1	-3.6	4.0	171.5	3.6	北北西
2月		3.7	16.8	-3.4	13.0	161.8	3.4	西北西
3月		7.0	17.8	-1.0	83.0	205.4	3.4	北北西
4月		10.2	22.4	-1.0	90.5	211.2	3.5	西北西
5月		17.4	32.1	6.5	81.0	294	3.3	南東
6月		19.0	27.7	11.7	168.5	156.4	3.0	南東
7月		22.4	36.1	16.0	111.5	102.7	2.4	南東
8月		26.2	35.1	20.7	88.5	144.3	2.6	東南東
9月		22.4	33.9	14.1	72.5	154.7	2.6	北北西
10月		16.9	28.9	6.7	644.5	135.2	3.4	北北西
11月		10.0	21.4	-1.6	5.5	162.7	3.1	北北西
12月		5.4	16.2	-1.9	27.0	156.1	3.1	北北西
年間		13.6	24.9	5.3	1,390	2,056	3.1	北北西

※：年間における各項目は、以下のとおり。

気 温：月平均気温、月最高(低)気温

降 水 量：月間降水量

日照時間：月間日照時間

平均風速：月平均風速

最多風向：月最多風向

出典：気象庁 HP「過去の気象データ検索」（令和2年7月閲覧）（<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁）

(2) 大気質

ア. 大気汚染の状況

各測定局の測定項目等は表 6.1-3、常時監視測定局の位置は図 6.1-2 に示すとおりである。

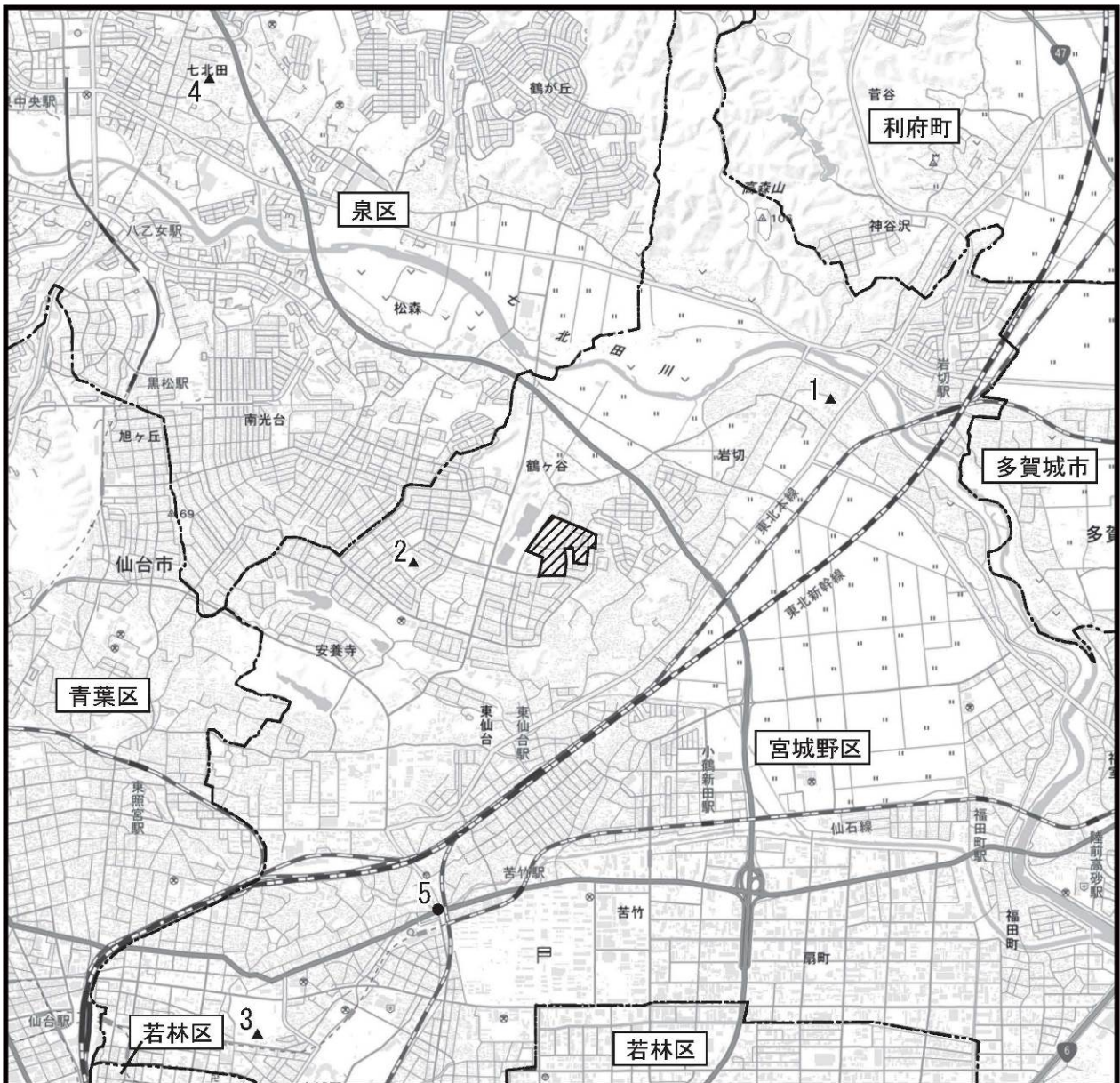
調査範囲内には、大気汚染常時監視測定局として、一般環境大気測定局が 4 局（岩切測定局、鶴谷測定局、榴岡測定局、七北田測定局）、自動車排出ガス測定局が 1 局（苦竹測定局）設置されている。

表 6.1-3 大気汚染常時監視測定局の測定項目





測定局種別	No. ※	測定局名	二酸化硫黄	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	微小粒子状物質	非メタン炭化水素
一般環境大気	1	岩切	-	-	○	○	-	○	-
	2	鶴谷	-	○	○	○	-	-	-
	3	榴岡	○	○	○	○	-	○	○
	4	七北田	-	○	○	○	-	○	-
自動車排出ガス	5	苦竹	○	○	-	○	-	○	-

※：表中の No. は、図 6.1-2 に対応する。

出典：「公害関係資料集（平成 30 年度測定結果）」（仙台市環境局）

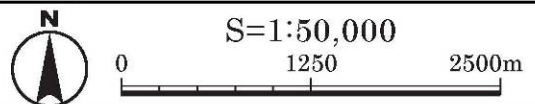


凡 例

-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 一般環境大気測定局 (図中番号 : 1~4)
-  : 自動車排出ガス測定局 (図中番号 : 5)

※: 図中の番号は表 6.1-3 に対応する。
 出典: 「公害関係資料集(平成 24 年度~平成 28 年度測定結果)」

図 6.1-2 大気質の測定地点位置



① 二酸化硫黄 (SO₂)

平成 30 年度における二酸化硫黄測定結果は表 6.1-4、平成 24 年度～平成 30 年度までの 7 年間に
おける年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-5 に示すとおりである。

いずれの測定局においても、短期的評価及び長期的評価とも環境基準を満足している。また、経
年変化は年平均値及び日平均値の 2%除外値とともに、いずれの測定局でも横ばい傾向を示してい
る。

表 6.1-4 二酸化硫黄測定結果 (平成 30 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価				長期的評価			
						1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数
						時間	%	日	%				
一般環境	榴岡	近隣商業	359	8624	0.000	0	0.0	0	0.0	0.014	0.002	○	0
自排	苦竹	商業	339	8127	0.000	0	0.0	0	0.0	0.012	0.001	○	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること										

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

表 6.1-5 二酸化硫黄経年変化 (平成 24 年度～平成 30 年度)

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
			一般環境	榴岡	年平均値		0.000	0.001	0.001	0.000
	日平均値の 2%除外値		0.002		0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002
自排	苦竹	年平均値		(0.001)	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000
		日平均値の 2%除外値		(0.002)	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001

※：() 内は、有効測定時間未満の測定値

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

② 二酸化窒素 (NO₂)

平成 30 年度における二酸化窒素測定結果は表 6.1-6、平成 24 年度～平成 30 年度までの 7 年間における年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-7 に示すとおりである。

いずれの測定局においても環境基準を満足している。また、経年変化は年平均値及び日平均値の年間 98% 値ともに、いずれの測定局も減少傾向がみられる。

表 6.1-6 二酸化窒素測定結果 (平成 30 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数		年平均値	1 時間値の最高値	1 時間値が 0.2ppm を超えた時間数とその割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下の時間数とその割合		日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98% 値	98% 値評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数
			日	時間			ppm	ppm	時間	%	時間	%	日	%		
一般環境	鶴谷	第一種低層住居専用	360	8629	0.007	0.050	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0
	榴岡	近隣商業	358	8587	0.009	0.054	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.020	0
	七北田	第一種住居	361	8625	0.008	0.049	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.019	0
自排	苦竹	商業	361	8627	0.013	0.057	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.025	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること													

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

表 6.1-7 二酸化窒素経年変化 (平成 24 年度～平成 30 年度)

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度						
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
一般環境	鶴谷	年平均値	0.009	0.009	0.009	0.008	0.007	0.008	0.007
		日平均値の年間 98% 値	0.024	0.024	0.020	0.020	0.020	0.020	0.018
	榴岡	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.009	0.008	0.009	0.009
		日平均値の年間 98% 値	0.026	0.028	0.022	0.022	0.019	0.022	0.020
七北田	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.010	0.009	0.009	0.008	
	日平均値の年間 98% 値	0.026	0.027	0.023	0.024	0.022	0.021	0.019	
自排	苦竹	年平均値	0.018	0.018	0.016	0.016	0.014	0.014	0.013
		日平均値の年間 98% 値	0.033	0.035	0.029	0.029	0.028	0.027	0.025

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

③ 光化学オキシダント (O_x)

平成 30 年度における光化学オキシダントの測定結果は表 6.1-8、平成 24 年度～平成 30 年度までの 7 年間における 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数の経年変化は表 6.1-9 に示すとおりである。

平成 30 年度における昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間は、岩切測定局では 132 時間 (28 日)、鶴谷測定局では 224 時間 (43 日)、榴岡測定局では 225 時間 (42 日)、七北田測定局では 246 時間 (46 日) 発生し、昼間の 1 時間値の最高値は岩切測定局では 0.073ppm、鶴谷測定局では 0.078ppm、榴岡測定局では 0.079ppm、七北田測定局では 0.078ppm と環境基準 (0.06ppm) を満足していない。また、1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数ともに平成 29 年度の七北田測定局が最多となっている。

表 6.1-8 光化学オキシダント測定結果 (平成 30 年度)

種別	測定局	用途地域	昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数と時間数		昼間の 1 時間値の最高値	昼間の 1 時間値の最高 1 時間値の平均値
			日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般環境	岩切	第一種住居	365	5429	0.031	28	132	0	0	0.086	0.042
	鶴谷	第一種低層住居専用	365	5431	0.035	43	224	0	0	0.092	0.046
	榴岡	近隣商業	365	5414	0.034	42	225	0	0	0.094	0.045
	七北田	第二種住居	365	5406	0.035	46	246	0	0	0.093	0.047
環境基準			1 時間値が 0.06ppm 以下であること								

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

表 6.1-9 光化学オキシダント経年変化 (平成 24 年度～平成 30 年度)

種別	測定局	項目	年度	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
一般環境	岩切	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	8	12	19	20	10	19	28
			時間数 (時間)	29	45	96	97	28	101	132
	鶴谷	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	27	20	42	49	30	44	43
			時間数 (時間)	88	76	238	279	103	257	224
	榴岡	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	15	19	47	49	24	43	42
			時間数 (時間)	44	73	237	285	107	243	225
	七北田	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数 (日)	37	31	43	52	35	54	46
			時間数 (時間)	140	123	264	270	140	345	246

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

④ 浮遊粒子状物質 (SPM)

平成 30 年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 6.1-10、平成 24 年度～平成 30 年度までの 7 年間に於ける年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-11 に示すとおりである。

いずれの測定局においても、環境基準の短期的評価及び長期的評価を満足している。また、経年変化は年平均値が平成 24 年度から平成 30 年度にかけて、いずれの測定局も大きな変化はみられていない。

表 6.1-10 浮遊粒子状物質測定結果 (平成 30 年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価					長期的評価		
						1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数
						時間	%	日	%	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○	日
一般環境	岩切	第一種住居	362	8710	0.015	0	0.0	0	0.0	0.080	0.040	○	0
	鶴谷	第二種低層住居専用	364	8716	0.015	0	0.0	0	0.0	0.068	0.038	○	0
	榴岡	近隣商業	364	8707	0.014	0	0.0	0	0.0	0.076	0.039	○	0
	七北田	第二種住居	361	8646	0.010	0	0.0	0	0.0	0.084	0.028	○	0
自排	苦竹	商業	361	8680	0.019	0	0.0	0	0.0	0.098	0.048	○	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ 1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること										

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

表 6.1-11 浮遊粒子状物質経年変化 (平成 24 年度～平成 30 年度)

単位：mg/m³

種別	測定局	項目	年度						
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
一般環境	岩切	年平均値	0.016	0.017	0.018	0.016	0.013	0.014	0.015
		日平均値の 2% 除外値	0.039	0.042	0.044	0.039	0.032	0.034	0.040
	鶴谷	年平均値	0.018	0.019	0.018	0.017	0.014	0.014	0.015
		日平均値の 2% 除外値	0.037	0.044	0.043	0.046	0.031	0.034	0.038
	榴岡	年平均値	0.013	0.013	0.014	0.012	0.010	0.013	0.014
		日平均値の 2% 除外値	0.035	0.048	0.044	0.042	0.027	0.034	0.039
七北田	年平均値	0.016	0.017	0.017	0.014	0.010	0.011	0.010	
	日平均値の 2% 除外値	0.042	0.043	0.044	0.038	0.023	0.027	0.028	
自排	苦竹	年平均値	0.021	0.021	0.021	0.021	0.018	0.018	0.019
		日平均値の 2% 除外値	0.053	0.059	0.054	0.051	0.042	0.044	0.048

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」 (仙台市環境局)

⑤ 一酸化炭素 (CO)

「公害関係資料集」(平成 30 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲では一酸化炭素の測定は行われていない。

⑥ 微小粒子状物質 (PM2.5)

平成30年度における微小粒子状物質の測定結果は表 6.1-12、平成24年度～平成30年度までの7年間における年平均値及び日平均値の年間98%値の経年変化は表 6.1-13 に示すとおりである。

平成30年度における測定結果は、いずれの測定局においても、環境基準の長期基準及び短期基準ともに満足している。なお、日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数は、岩切測定局では0日、榴岡測定局で4日、七北田測定局で1日、苦竹測定局で3日であった。また、経年変化は年平均値、日平均値の98%値とともに、いずれの測定局においても横ばい傾向が見られる。

表 6.1-12 微小粒子状物質測定結果 (平成30年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	日平均値の年間98%値	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
			日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%
一般環境	岩切	第一住	360	8.2	23.0	0	0.0
	榴岡	近隣商業	359	10.3	30.4	4	1.1
	七北田	第二住	350	10.6	26.3	1	0.3
自排	苦竹	商業	361	11.4	30.8	3	0.8
環境基準		1年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。*					

※長期基準及び短期基準の評価を各々実施した上で両者の基準の達成状況から評価する。

・長期基準は年平均値を環境基準 ($15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) と比較して評価する。

・短期基準は日平均値の年間98%値を日平均値の代表値として環境基準 ($35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) と比較して評価する。

出典：「公害関係資料集 (平成30年度測定結果)」 (仙台市環境局)

表 6.1-13 微小粒子状物質経年変化 (平成24年度～平成30年度)

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

種別	測定局	項目	年度						
			平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
一般環境	岩切	年平均値	-	-	(9.4)	10.1	8.2	8.8	8.2
		日平均値の年間98%値	-	-	(27.8)	28.1	20.4	23.0	23.0
	榴岡	年平均値	11.6	12.0	11.5	12.9	11.1	9.6	10.3
		日平均値の年間98%値	29.6	34.8	30.5	34.3	25.7	27.3	30.4
	七北田	年平均値	-	-	(9.4)	9.6	8.0	7.5	10.6
		日平均値の年間98%値	-	-	(26.3)	26.8	19.2	21.5	26.3
自排	苦竹	年平均値	13.2	12.9	13.2	12.7	10.5	10.7	11.4
		日平均値の年間98%値	30.4	36.1	32.0	33.4	24.8	28.3	30.8

※：() 内は有効測定日数未滿の測定値

出典：「公害関係資料集 (平成30年度測定結果)」 (仙台市環境局)

⑦ 非メタン炭化水素 (NMHC)

平成 30 年度における非メタン炭化水素の測定結果は表 6.1-14、平成 24 年度～平成 30 年度までの 7 年間における年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-15 に示すとおりである。

非メタン炭化水素には環境基準が設定されていないが、光化学オキシダントの生成防止のための「大気中鉛の健康影響について及び光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について(中央公害対策審議会答申)」(昭和 51 年 8 月 17 日 環大企 220 号)として「6～9 時の 3 時間平均値が 0.20～0.31ppmC の範囲にあること」と示されている。

平成 30 年度における 6～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を越えた日数は、榴岡測定局で 5 日発生している。また、経年変化は、年平均値、6～9 時における年平均値ともに、榴岡測定局においては概ね横ばい傾向を示している。

表 6.1-14 非メタン炭化水素測定結果 (平成 30 年度)

種別	測定局	用途地域	測定時間	年平均値	6～9 時における年平均値	6～9 時測定日数	6～9 時の 3 時間平均値		6～9 時の 3 時間平均値が 0.20ppmC を越えた日数とその割合		6～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を越えた日数とその割合	
							最高値	最低値	日	%	日	%
							ppmC	ppmC				
一般環境	榴岡	近隣商業	8335	0.09	0.10	351	0.50	0.03	16	4.6	5	1.4

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」(仙台市環境局)

表 6.1-15 非メタン炭化水素経年変化 (平成 24 年度～平成 30 年度)

種別	測定局	項目	年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
			一般環境	榴岡	年平均値 (ppmC)	0.06	0.06	0.11	0.09	0.09
		6～9 時における年平均値 (ppmC)	0.07	0.07	0.12	0.10	0.10	0.10	0.10	
		6～9 時 3 時間平均値	0.20ppmC を越えた日数 (日)	13	8	18	14	14	15	16
			その割合 (%)	3.8	2.3	6.5	3.9	4.0	4.2	4.6
			0.31ppmC を越えた日数 (日)	2	0	0	3	1	1	5
			その割合 (%)	0.6	0.0	0.0	0.8	0.3	0.3	1.4

出典：「公害関係資料集 (平成 30 年度測定結果)」(仙台市環境局)

イ. 大気質に係る苦情の状況

仙台市における平成 24 年度～平成 30 年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-16、多賀城市における平成 24 年度～平成 30 年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-17 に示すとおりである。

仙台市では、ばい煙の苦情件数が年間 1 件～15 件、粉じんの苦情件数が年間 9 件～25 件で推移している。多賀城市では、大気汚染の苦情件数が年間 1 件～9 件で推移している。なお、利府町では大気汚染に係る苦情は報告されていない。

表 6.1-16 大気質に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 24 年度～平成 30 年度）

単位：件

項目 \ 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ばい煙	15	4	4	8	5	2	1
粉じん	25	20	16	15	9	11	24

出典：「公害関係資料集（平成 24 年度～平成 30 年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-17 大気質に係る苦情件数の経年変化（多賀城市内：平成 24 年度～平成 30 年度）

単位：件

市町村 \ 項目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
多賀城市 大気汚染	1	1	5	2	1	9	3

※：ばい煙、粉じんの内訳は、宮城県環境対策課では把握されていない。

出典：「公害苦情調査結果報告書（平成 24 年度～平成 30 年度）」（宮城県環境生活部環境対策課）

ウ. 発生源の状況

仙台市における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-18、多賀城市における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-19、利府町における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-20 のとおりである。

関係地域内では表 6.1-21 に示すばい煙発生施設を有する事業場が存在しており、その位置は図 6.1-3 に示すとおりである。なお一般粉じん発生施設は存在しない。

表 6.1-18 仙台市内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業者数（平成 30 年度）

単位：件

項目	年度	平成 30 年度	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	1,601 (715)
粉じん	130 (23)		

出典：「公害関係資料集」（平成 30 年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-19 多賀城市内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業者数（平成 26 年度）

単位：件

項目	年度	平成 26 年度	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	120 (39)
粉じん	15 (1)		

出典：「平成 26 年度宮城県公害資料（大気編）」（宮城県環境生活部環境対策課）

表 6.1-20 利府町内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業者数（平成 26 年度）

単位：件

項目	年度	平成 26 年度	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	55 (22)
粉じん	26 (2)		

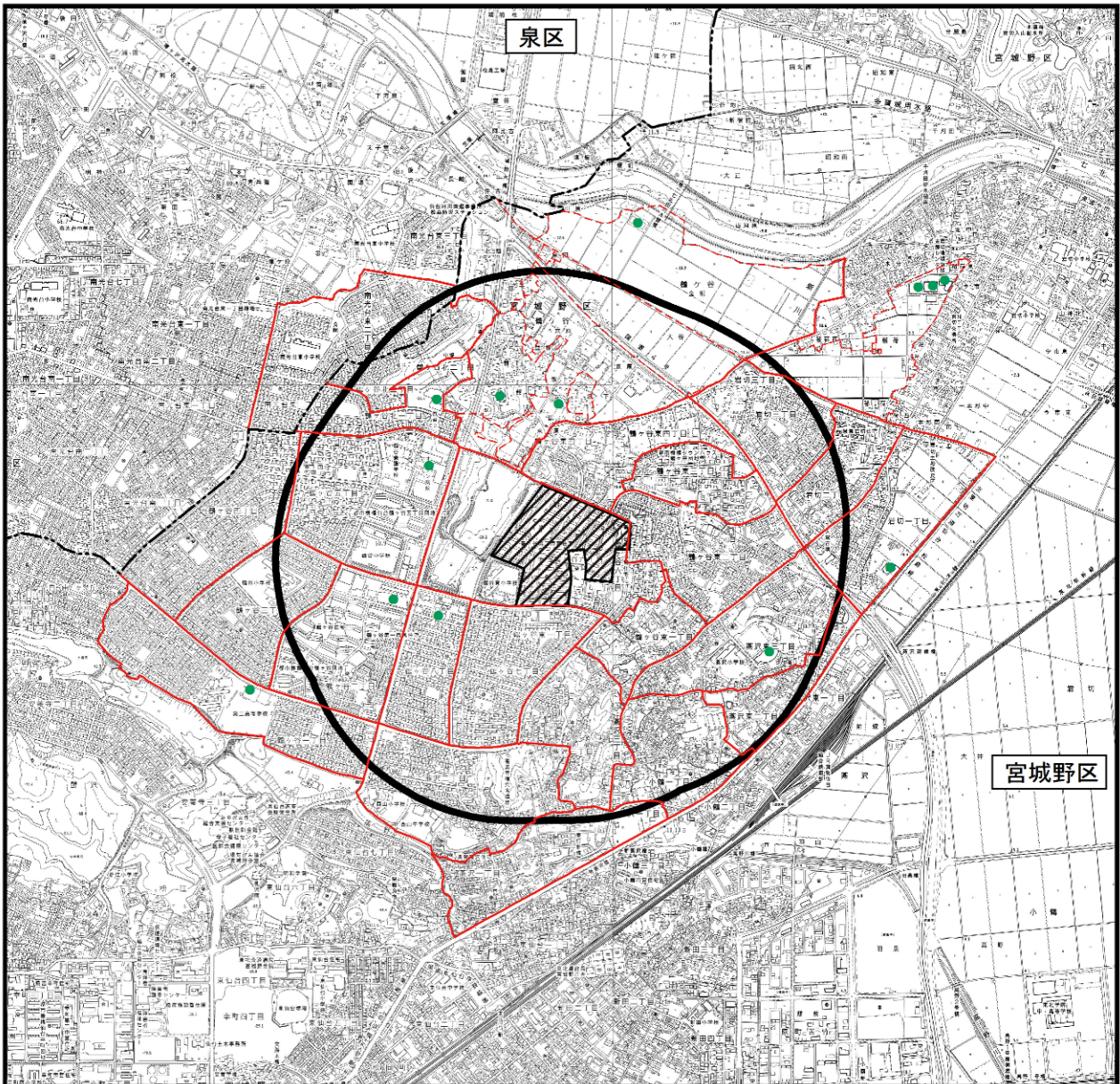
出典：「平成 26 年度宮城県公害資料（大気編）」（宮城県環境生活部環境対策課）

表 6.1-21 大気汚染防止法（ばい煙）に基づく発生施設数







区名	発生施設所在地	事業所数	施設数	
			総数	内訳
宮城野区	燕沢東三丁目	1	1	ボ イ ラ ー：1
	岩切一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	岩切字稲荷	3	4	ボ イ ラ ー：4
	鶴ヶ谷一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷五丁目	1	9	ボ イ ラ ー：6 ディーゼル機関：3
	鶴ヶ谷字館下	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷字京原	1	1	ボ イ ラ ー：1
	鶴ヶ谷字金堀	1	1	ガ ス タ ー ビ ン：1
	鶴ヶ谷二丁目	1	1	ディーゼル機関：1
	鶴ヶ谷八丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷北一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2

出典：「大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）

「大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）



凡 例

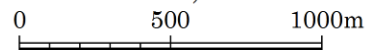
-  : 計画地
-  : 区界
-  : 大字界
-  : 小字界
-  : 関係地域の範囲(800m)
-  : 大気汚染防止法(ばい煙)に基づく発生施設

出典：「大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設一覧」(平成30年3月31日現在 仙台市)
「大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設一覧」(平成30年3月31日現在 仙台市)

図 6.1-3 大気汚染防止法(ばい煙)に基づく発生施設



S=1:25,000



(3) 騒音

ア. 騒音の状況

① 環境騒音

「公害関係資料集」(平成 29 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲では環境騒音の測定は行われていない。

② 道路交通騒音

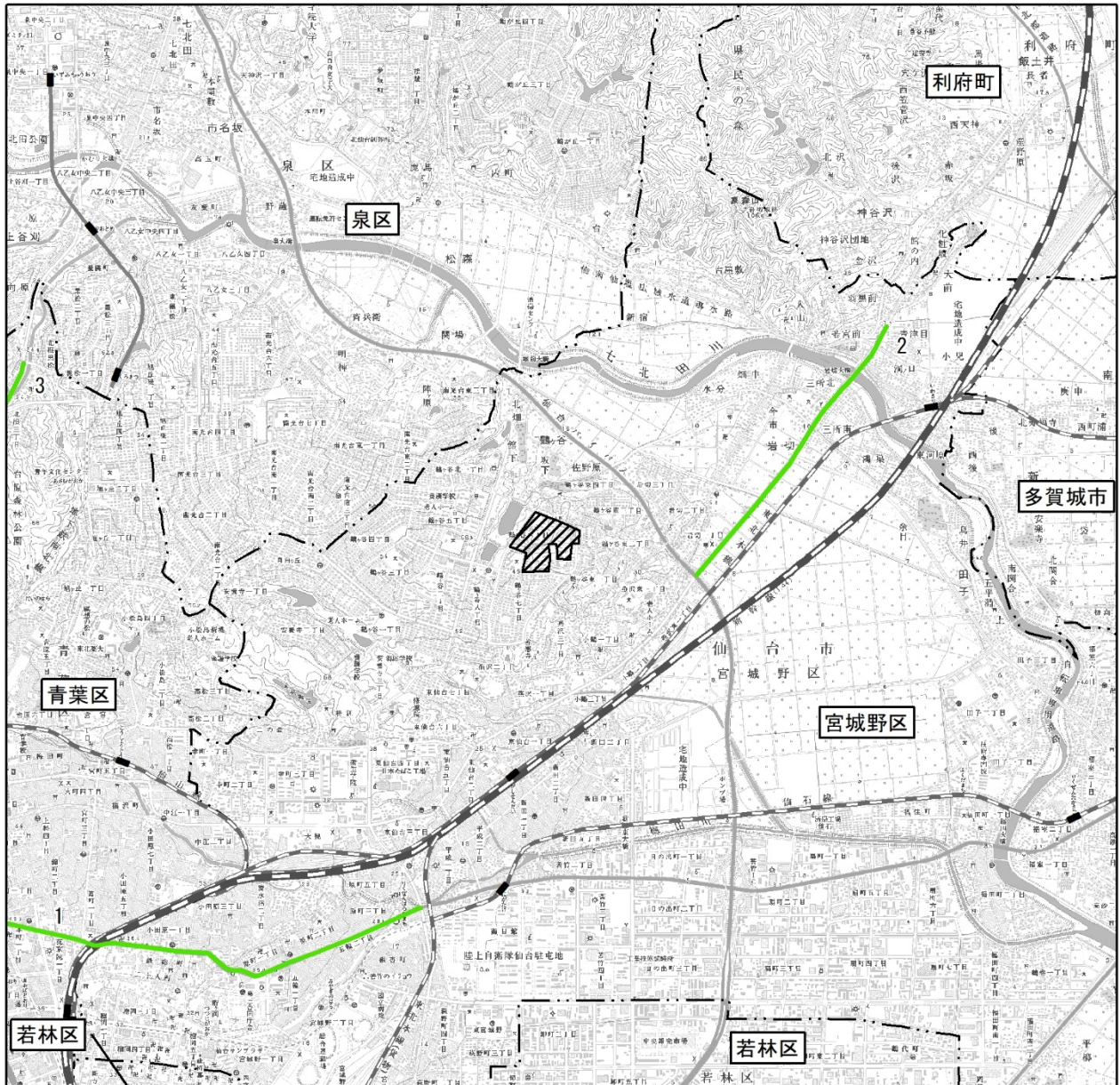
調査範囲において、平成 29 年度に道路交通騒音測定が 3 地点で実施されている。平成 29 年度の道路交通騒音測定結果は表 6.1-22、道路交通騒音調査路線位置図は図 6.1-4 に示すとおりである。各路線の環境基準達成状況は 60~78%であった。

表 6.1-22 道路交通騒音測定結果(平成 29 年度)




路線 No.※	評価対象道路					評価結果		
	評価 区間 番号	路線名	評価区間 (上段:始点) (下段:終点)	評価 区間 の延長 (km)	評価 対象 住居等 戸数 (戸)	環境基準達成状況		
						昼間・夜 間 とも達成	昼間のみ 達成	夜間のみ 達成
						達成率 (%)	達成率 (%)	達成率 (%)
達成戸数 (戸)	達成戸数 (戸)	達成戸数 (戸)						
1	1010	国道 45 号	仙台市青葉区 本町 1 丁目 15	3.4	3,704	72	4	0
			仙台市宮城野区 原町 3 丁目 7			2,659	137	0
2	4002	仙台 松島線	仙台市宮城野区 岩切 1 丁目 1	2.6	297	60	19	0
			仙台市宮城野区 岩切羽黒前			178	57	0
3	4009001	仙台泉線	仙台市青葉区 昭和町 3	2.4	1,221	78	5	0
			仙台市青葉区 双葉ヶ丘 1 丁目 1			955	58	0

※:表中のNo.は、図 6.1-4に対応する。

出典:「公害関係資料集(平成 29 年度測定結果)」(仙台市環境局)

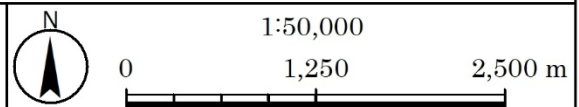


凡例

-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 道路交通騒音調査路線 (图中番号1~3)

※: 图中の番号は表 6.1-22 に対応する。
 出典: 「公害関係資料集(平成 24 年度~平成 29 年度測定結果)」

図 6.1-4 道路交通騒音調査路線位置図



イ. 騒音に係る苦情の状況

仙台市における平成 24 年度～平成 30 年度の騒音に係る苦情件数の推移は表 6.1-23、多賀城市における平成 24 年度～平成 30 年度の騒音に係る苦情件数の推移は表 6.1-24 に示すとおりである。

仙台市では騒音の苦情件数が年間 85～148 件で推移しており、多賀城市では年間 5 件～24 件で推移している。なお、利府町では騒音に係る苦情は報告されていない。

表 6.1-23 騒音に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 24 年度～平成 30 年度）

単位：件

項目 \ 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
騒音	121	128	139	148	109	85	100

出典：「公害関係資料集（平成 24 年度～平成 30 年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-24 騒音に係る苦情件数の経年変化（多賀城市内：平成 24 年度～平成 30 年度）

単位：件

項目 \ 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
騒音	24	13	12	10	5	8	12

出典：「公害苦情調査結果報告書（平成 24 年度～平成 30 年度）」（宮城県環境生活部環境対策課）

ウ. 発生源の状況

仙台市における騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-25、多賀城市及び利府町における騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況は表 6.1-26 に示すとおりである。

仙台市の平成 30 年度の届出は、全 207 件のうち、工事種別ではビル等工事が 133 件（64%）を占めている。また、作業内容別ではさく岩機を使用する作業が 142 件（68%）を占めている。

また、関係地域内における騒音規制法に基づく特定施設の届出があった事業場は、表 6.1-27 及び図 6.1-5 に示すとおりである。宮城県公害防止条例（騒音）に基づく特定施設の届出があった事業場は、表 6.1-28 及び図 6.1-6 に示すとおりである。

表 6.1-25 仙台市内の騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 30 年度）

単位：件

作業内容	工事種別	ビル等 工事	上下水道 等工事	道路河川 等工事	その他の 工事	合計
くい打機・くい抜機を使用する作業		16	1	1	4	22
びょう打機を使用する作業		-	-	-	-	-
さく岩機を使用する作業		89	11	10	32	142
空気圧縮機を使用する作業		16	1	-	8	25
コンクリートプラントを設けて行う作業		-	-	-	-	-
バックホウを使用する作業		12	-	2	2	16
トラクターショベルを使用する作業		-	-	-	-	-
ブルドーザーを使用する作業		-	-	-	2	2
計		133	13	13	48	207

出典：「公害関係資料集（平成 30 年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-26 多賀城市及び利府町内の騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 27 年度）

単位：件

作業内容	市町村	多賀城市	利府町
くい打機・くい抜機を使用する作業		3	0
びょう打機を使用する作業		0	0
さく岩機を使用する作業		2	2
空気圧縮機を使用する作業		4	0
コンクリートプラントを設けて行う作業		0	0
バックホウを使用する作業		3	2
トラクターショベルを使用する作業		0	0
ブルドーザーを使用する作業		2	2
計		14	6

※：工事種別の内訳は、公表されていない。

出典：「平成 27 年度 宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）」（宮城県環境生活部環境対策課）

表 6.1-27 騒音規制法に基づく特定施設の状況

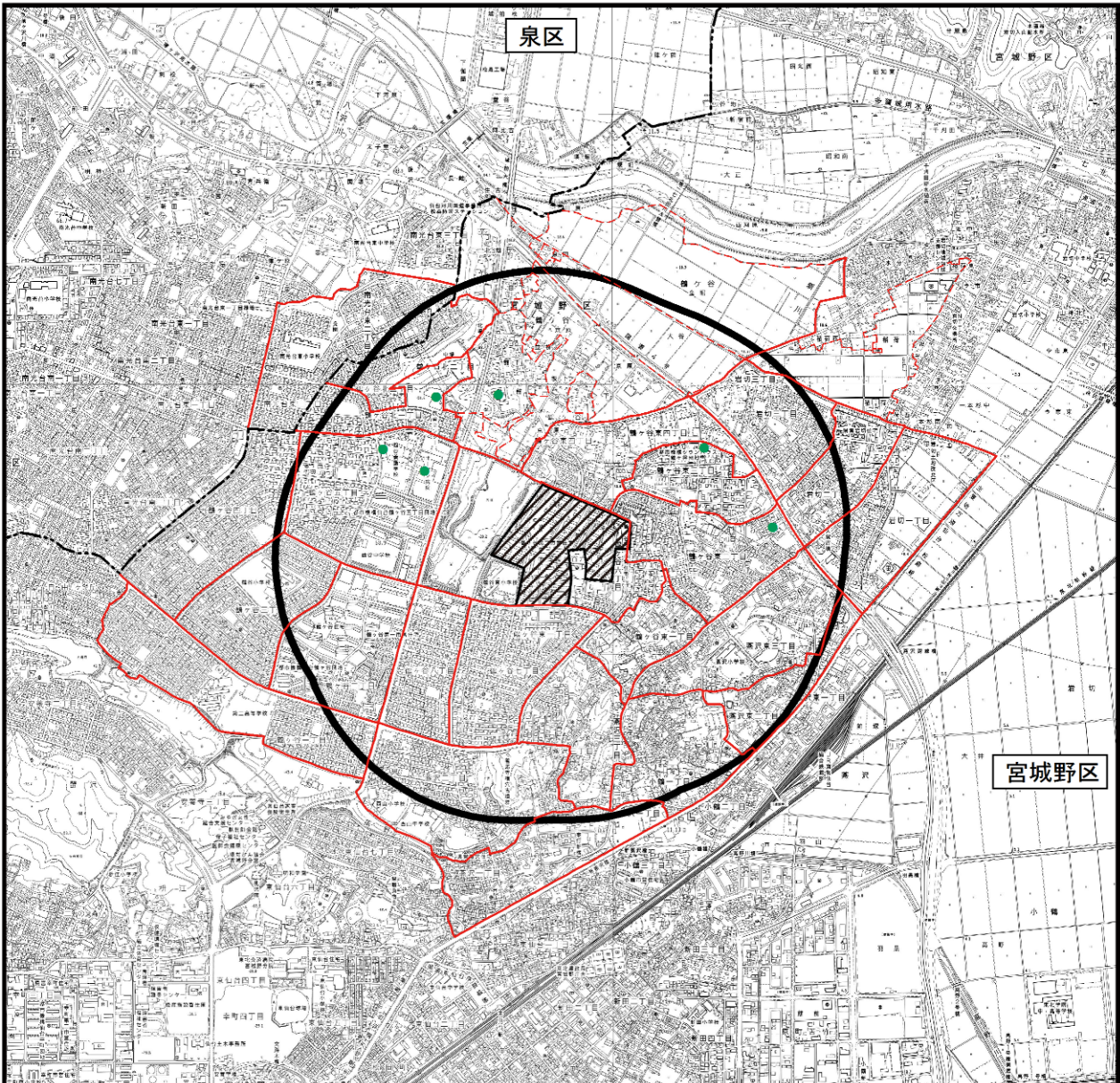
区名	事業場所在地	事業場数	施設数		
			総数	内訳	
宮城野区	鶴ヶ谷五丁目	2	2	送風機	: 2
	鶴ヶ谷字館下	1	1	送風機	: 1
	鶴ヶ谷北一丁目	1	1	送風機	: 1
	鶴ヶ谷東三丁目	1	1	送風機	: 1
	鶴ヶ谷東二丁目	1	1	機械プレス	: 1

出典：「騒音振動特定施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）







表 6.1-28 宮城県公害防止条例（騒音）に基づく特定施設の状況

区名	事業場所在地	事業所数	施設数	
			総数	内訳
宮城野区	岩切一丁目	1	2	クーリングタワー：1 バーナー：1
	岩切字稲荷	2	4	クーリングタワー：2 バーナー：2
	鶴ヶ谷一丁目	1	1	バーナー：1
	鶴ヶ谷二丁目	2	4	クーリングタワー：2 バーナー：2
	鶴ヶ谷五丁目	2	3	クーリングタワー：1 バーナー：2
	鶴ヶ谷八丁目	1	1	バーナー：1
	鶴ヶ谷字京原	1	1	バーナー：1

出典：「騒音振動特定施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）



凡 例

-  : 計画地
-  : 区界
-  : 大字界
-  : 小字界
-  : 関係地域の範囲 (800m)
-  : 騒音規制法に基づく特定施設

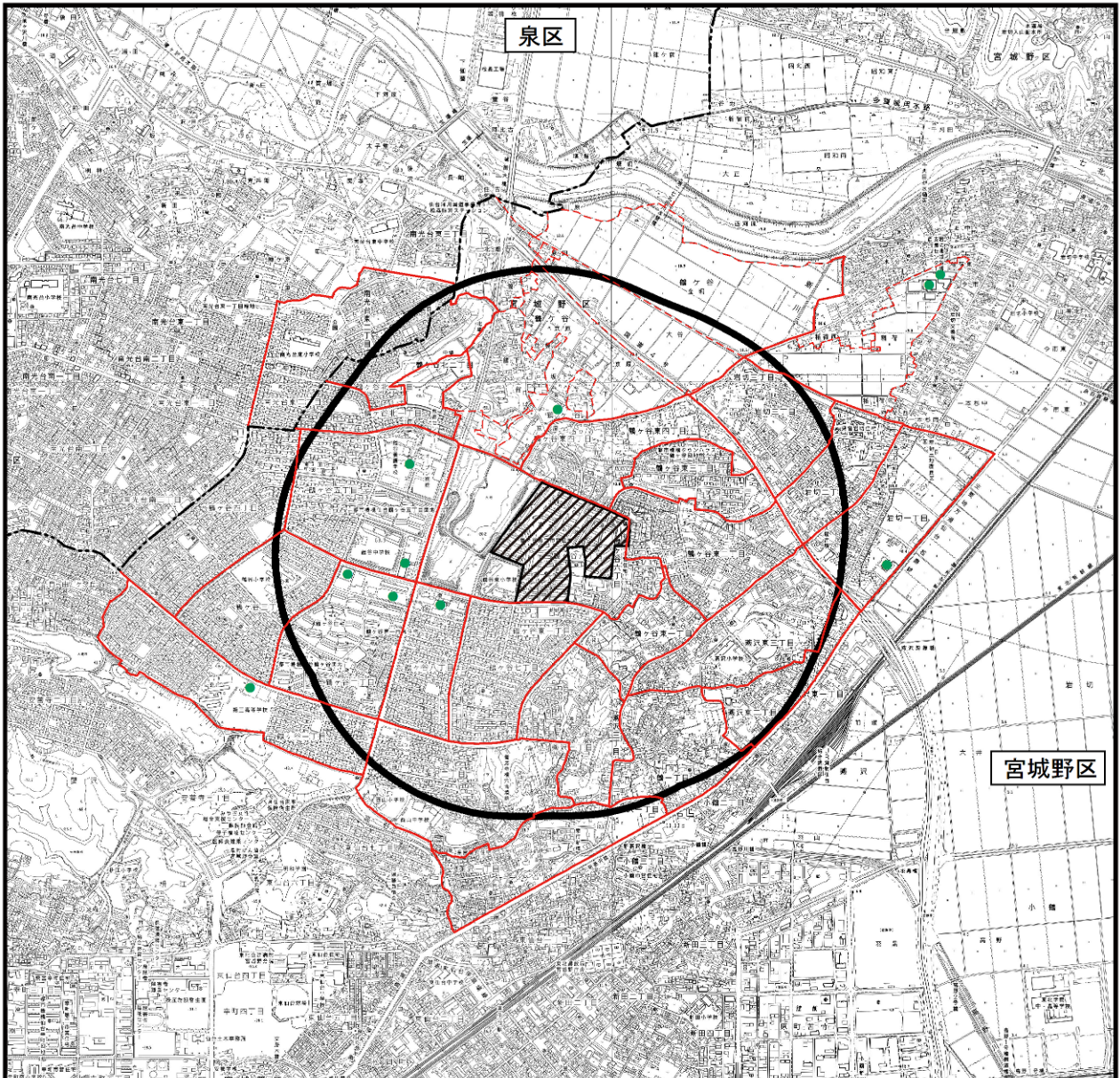
出典：「騒音振動特定施設一覧」（平成30年3月31日現在 仙台市）

図 6.1-5 騒音規制法に基づく特定施設









S=1:25,000

0 500 1000m



凡 例

-  : 計画地
-  : 区界
-  : 大字界
-  : 小字界
-  : 関係地域の範囲 (800m)
-  : 宮城県公害防止条例（騒音）に基づく特定施設

出典：「騒音振動特定施設一覧」（平成30年3月31日現在 仙台市）

図 6.1-6 宮城県公害防止条例（騒音）に基づく
特定施設



S=1:25,000
0 500 1000m